

事業シート①

【平成20年度】

課コード	0002207	作成日	平成21年8月28日
所属名	公園課	作成者	高橋 康彰

事業名		戦略性	
公園整備事業		部局	
事業概要			
目的 (対象、意図、求められる結果)		開始年度	終了予定年度
都市公園等の計画的な整備を行う。		年	年
活動内容【イン・プット】			
公園の配置・種別等を考慮して、国等の補助金を有効に活用し、効率的で経済的な公園の整備を行う。また、公園の計画に当たっては、地元や利用者の意見を反映させるため、ワークショップの開催(9公園で開催、一公園3回程度開催、延べ約810人の参加者)、地域住民による植栽、花壇づくり、ベンチ設置(1公園で3箇所設置：445,410円)を積極的に取り入れ、市民との協働による公園づくりを推進する。			
事業の性格分類		実施根拠(法令、条例等)	
<input type="checkbox"/> 義務的事業 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的事业		新市建設計画事業	ワークショップ提案事業
		○	○
事業運営方法			
<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等			

平成20年度のコスト【イン・プット】

事業費(千円)		財源(千円)		職員人件費(千円)	
計	841,646	計	841,646	正規職員(人工)	86,250
人件費	0	国庫支出金	243,200	非常勤職員(人工)	0.0
扶助費	0	県支出金	0	再任用職員(人工)	0.25
物件費	0	市債	346,800	年間経費(千円)	927,896
維持補修費	0	受益者負担金	0	受益者負担率(%)	0.0
補助費等	0	その他	0		
その他	841,646	一般財源	251,646		

定量評価

指標1【アウト・カム】	単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
一人当たりの公園面積 8.00 m ²	目標	%	98	99	99	99
	実績	%	98	99	100	
年間経費(事業費・人件費の合計)	千円	1,187,843	1,296,000	927,896	975,951	963,716

指標2	単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
	目標	%				
	実績	%				
年間経費(事業費・人件費の合計)	千円					

定性評価

事業目的の達成状況

都市公園事業を推進することにより、29公園150,141.84m²が開設され、平成19年度の7.85m²から平成20年度には8.02m²となった。このことにより、市民が憩い・やすらぎ場など安全で安心な公園を提供することができた。【アウト・カム】

内部評価の結果

(1)必要性			
C 継続	A 終了 B 廃止 C 継続		(理由) 公園は、憩いの場として市民生活に無くてはならないものであり、市民の多くの要望を受けて、引き続き公園整備を進める必要がある。
(2)実施主体			
C 市	A 民間(民営化) B 国、県、広域 C 市		(理由) 県が施行する広域公園を除き、市民のための公園は市が整備することになっている。
(3)選択と集中			
B 現状	A 拡大(予算) B 現状(予算) C 縮小(予算)		(理由) 身近な公園の整備などに市民からの要望も多いことから、引き続き公園整備を進める。また、新規以外にも既存の公園をリニューアルすることも必要な状況にある。
(4)改善			
A 改善あり	A 改善あり	<input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 一部廃止 <input type="checkbox"/> 受益者負担 <input checked="" type="checkbox"/> 協働 <input type="checkbox"/> 非常勤化 <input type="checkbox"/> その他改善	(理由) 公園計画策定(ワークショップ)、公園管理協定(公園愛護会)など、市民協働で進めることにより、利用しやすい、愛着のある公園整備を進めている。
	B 改善なし	<input type="checkbox"/> 現状	
今後の事業展開			
今後の方向性			(理由)
C 改善	A 拡大 B 現状 C 改善 D 廃止		予想される人口減少社会に対して、新規の公園整備だけでなく、既存公園のリニューアルによる高齢者や幼児が近隣で遊び・集える公園整備も進める必要がある。
今後の方向性を実現するための具体的取り組み(何をいつまでにどうするか)			
都市計画公園予定地を優先して整備を進めるが、地域的に見て公園設置数が少ない地域については、公共用地などを有効利用した設置を考慮していく。また、防災公園についても、配置はもとより耐震性貯水槽・防災倉庫などの施設の充実も図る。さらに、既存の開設済公園については、予想される少子・高齢化社会においては内容の見直しも必要と考えられることから、利用者の意見を取り入れたリニューアルを進める。 公園愛護会には、適切な管理に努めていただくとともに、今後も自主的活動である花づくり等には、積極的に支援をしていく。			
廃止できない理由(廃止した場合に想定される影響)			
公園は、憩い・やすらぎの場、子どもたちが安心・安全に遊べる場所など、市民生活になくてはならないものである。現在の都市公園は、合併の影響もあり、公園の配置の少ない区域、整備年次が古い区域などもあり、まだまだバランスの良い配置とはいえなため公園整備事業は廃止できない。			

政策・事業外部評価結果報告シート

事業名	公園整備事業			
所管課名	公園課			
内部評価 (外部評価前)	方向性	理由		
	改善	予想される人口減少社会に対して、新規の公園整備だけでなく、既存公園のリニューアルによる高齢者や幼児が近隣で遊び・集える公園整備も進める必要がある。		
外部評価	【採点結果】 4点満点			
	①事業の目的や内容が理解できたか	②事業の達成状況や効果が理解できたか	③内部評価の結果とその理由は妥当か	総合評価(平均)
	3. 2	2. 8	3. 2	3. 1
	【主な意見】			
	<ul style="list-style-type: none"> ・整備にあたってはワークショップの手法を用いているが、参加者は自治会関係者に限られているため、実際に利用する人が参加できるように利用者の視点に立った意見集約の方法について考えてほしい。 ・利用者のニーズに合わせた公園整備が必要であり、あらゆる手法を用いて行政の都合ではない意見集約をしてほしい。 ・管理についても、やり方をすべて市が決めるのではなく、地元愛護会など管理する側の自主性を認めることも必要。 			
今後の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・公園は、すべての世代が集い、憩えるように考え整備を進めていますが、近年の少子高齢化時代を迎え、特に、幼年期と高齢者に対して安全安心な公園が求められています。 そのような中で、新たな公園を整備するにはワークショップで、市民(当該自治会組織の子ども会・老人クラブ等)の意見を聞いて利用者のニーズを反映させたものを目指してきましたが、子育て世代の母親の意見が反映されていないとの意見もありました。 このような反省を踏まえて、公園の規模・用途・地域性など一律には決められない要素もありますが、利用者の意見集約の方法として、より多くの世代からの声を生かすよう取り組みを充実していきます。 ・また、公園愛護会には、適切な管理に努めていただくとともに、今後も自主的活動である花づくり等には、積極的に支援をしていきます。 			